

# イタイイタイ病について

## しっかり学んでいただくために



### 子どもにもわかりやすい展示

#### ●大切なポイントは興味をもって学べるよう工夫しています

- ・ジオラマに映像と絵本を組み合わせた解説
- ・さわったり、のぞいたりできる展示物
- ・大型スクリーンでの臨場感あふれる映像など

#### ●展示を理解してもらうための解説を充実しています

- ・資料館スタッフやボランティアによる展示解説
- ・音声で展示内容をご案内する「音声ガイド」……5ヶ国語
- ・展示の概要を冊子にまとめた「展示ガイドブック」…7ヶ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語、スペイン語）
- ・展示をヒントに問題を解きながら学習する「子どもクイズシート」

#### ●タッチパネル端末でさらに詳しい情報を提供します

展示室の各コーナーには、展示パネルよりもさらに詳しい情報をご覧いただけるタッチパネル端末を設置しています。

### 貴重な体験をされた「語り部」による講話

患者のご家族などで、イタイイタイ病の恐ろしさを実感し、多くの問題乗り越えてきた「語り部」の方から、貴重な体験を聞くことが出来ます。（原則10名以上の団体が対象）

### 学校の課外授業の積極的な受入れ

- ・資料館見学の事前学習などに活用できる副読本を発行
- ・語り部講話や解説付きの展示見学などのメニューを揃えた団体向け学習プランを用意



### 国内外への情報発信

イタイイタイ病や資料館に関する情報を、5ヶ国語に対応したホームページなどで国内外に広く配信します。



神通山の水を利用していた頃の暮らしを再現したジオラマ

### 利用案内

開館時間：9:00～17:00（展示室への入室は 16:30 まで）

入館料：無料

休館日：月曜日（休日の場合は翌日）、元日

\*設備点検その他の理由により、臨時休館とする場合があります

### 交通案内



#### ＜車をご利用の場合＞

富山ICから、国道41号線・岐阜方面へ。空港口交差点を右折、「富山迎賓館」を左折して約400mです（富山ICから約5分）。

#### ＜駐車場のご案内＞

- ①無料 400 台
- ②バス等大型車の駐車場は、第2駐車場奥のバス駐車スペースをご利用ください。
- ③車椅子利用専用駐車場は、9 台あります。身障者手帳など車いすご利用とわかるものをタッチボードに提示願います。

#### ＜電車をご利用の場合＞

最寄り駅は「JR 富山駅（南口）」です。富山駅からは、タクシーまたはバスをご利用ください（タクシー利用の場合は約 20 分、バス利用の場合は約 30 分かかります）。

#### ＜路線バスをご利用の場合＞

- ①バス停「中坂口」下車 徒歩 10 分
  - ②バス停「下熊野」下車 徒歩 15 分
- ※富山駅南口からの乗車時間は、いずれも 30 分  
詳細は富山地方鉄道バス路線と時刻表をご確認ください。

## 富山県立イタイイタイ病資料館

〒939-8224 富山県富山市友杉151番地（「とやま健康パーク」内）

TEL: 076-428-0830 FAX: 076-428-0833

イタイイタイ病資料館

検索

## 富山県立

## イタイイタイ病資料館

イタイイタイ病の教訓を後世へ



## 館内の案内

2F

### 資料閲覧室

イタイイタイ病のほか、環境や健康などに関する図書や映像がご覧になれます。

### 交流学習ルーム

団体を対象としたガイダンスや語り部講話などに利用します。80名の収容が可能です。2室に分割できます。

\*「交遊学習ルーム」は、貸出し（有料）も行っています。

### ⑤美しい水と大地を取り戻してきた環境被害対策



汚染された神通川や農地を元の美しい姿に戻してきた努力や成果などを紹介します。

### ④流域住民の健康を守り、患者を救う



患者認定の流れや条件、流域住民の健康調査の実施状況等をわかりやすく伝えます。

### ③原因究明、健康と暮らしを守る動き



原因究明、被害住民による裁判から原因企業との取決めに至る歴史を紹介いたします。

1F

### 展示室

昔の暮らし、被害の発生から現在までの動きを時間の流れに沿って紹介します。

### ⑥環境・エネルギー先端県の実現をめざして

環境と健康を大切にする行動のヒントとなる最新の環境施策などを紹介します。



### エントランス

床面の水系図や神通川の大型イメージ写真で皆さんを展示室へ誘います。



### ①神通川とともにあった暮らしの原風景



かつて神通川流域で川の水を利用して生活していた頃の暮らしをふり返ります。

### ②イタイイタイ病の発生と被害の実態



稲の生育不良などの異常、原因不明の病気がかかった患者や家族の苦しみをたどります。



## イタイイタイ病の教訓を活かし 美しい水と豊かな大地を未来へ

イタイイタイ病は、富山県の神通川流域で起きた日本の四大公害病の一つで、患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことからこの名が付いたといわれています。この病気は、大正時代頃から発生し、神通鉱山（岐阜県飛騨市）から排出されたカドミウムが神通川の水や流域を汚染し、この川水や汚染された農地に実った米などを通じて体内に入ること引き起こされました。

患者はもちろん、その家族や地元住民たちもつらくて苦しい日々が長い間続きました。裁判では住民側が勝訴しましたが、患者救済や健康調査は今もなお行われています。汚染された環境については、被害の克服に向けた長年にわたる努力によって、今では美しい水と大地がよみがえっています。

イタイイタイ病資料館は、子どもたちをはじめ、幅広い年代の人々が、

- 1 「イタイイタイ病の恐ろしさ」を知り
- 2 「克服の歴史」を学び
- 3 県民一人ひとりが「環境と健康を大切に」するライフスタイルの確立や地域づくりに取り組むことにつながる未来指向型の資料館をめざしています。

